

IV. 川崎市岡本太郎美術館概要

1. 美術館の目的

川崎市岡本太郎美術館は、川崎市ゆかりの芸術家岡本太郎氏から寄贈された美術作品及び資料をコレクションの中心として岡本太郎芸術の背景となった両親のかの子、一平の芸術、並びに近現代美術についての収集と展示を主な事業としています。また新しい芸術を創造するための収集、展示などを行い、市民の利用に供するものとします。

更には、単なる美術、芸術鑑賞の場にとどまることなく、市民の美術、芸術に関する創造活動を促進し、市民の芸術及び文化の発展に寄与することを目的としています。

2. 美術館事業内容

収集・保存

岡本太郎、一平、かの子に関する作品、資料、また近現代の美術作品を収集し、収蔵庫での燻蒸や必要に応じて資料の修復を行うなど、作品の保存管理を行います。

調査研究

- ・岡本太郎、一平、かの子作品とその周辺の美術、国内外の現代美術に関する調査と研究。
- ・美術館における展示方法や作品・資料の修復、保存の研究。
- ・美術館の普及活動における調査研究。

展 示

(常設展示)

常設展示室では、岡本太郎の作品の紹介とその背景となる一平、かの子の作品、資料の展示替えを年 3 回行います。

(企画展示)

企画展示室では、岡本太郎芸術に関連するテーマ展、新人作家展、子供向け展覧会など幅広いジャンルに渡る企画展を年 2~4 回の割合で行います。

情報・出版

情報コーナーとガイダンスホールでは、岡本太郎作品や芸術についての情報や映像を来館者に無料で提供します。また美術館ホームページやミュージアムニュースなどさまざまなメディアを通して外部への情報を発信し、美術館と人とのコミュニケーション作りをめざしています。

普 及

子供から成人まで、さまざまな年齢層に応じ、ワークショップ、講演会、講座などのイベントや、貸出教材、ビデオ等での岡本太郎や美術館の紹介など、だれもが気軽に美術に親しめるための普及活動を行います。また他の美術館、教育施設と連携したイベント等の事業にも活動を広げていきます。

3. 美術館沿革

平成元年 2月 川崎市市民ミュージアム「生誕 100 年記念・岡本かの子の世界」展開催

平成 2年 4月 川崎市市民ミュージアム「岡本一平とその弟子たち」展開催

平成 3年 4月 川崎市市民ミュージアム「川崎生まれの鬼才・岡本太郎」展開催

11月 岡本太郎氏の所有する主要作品 352 点が寄贈される

12月 美術館建設決定

- 平成 4 年 6 月 「仮称岡本記念館建設構想委員会」設置
- 平成 5 年 1 月 岡本太郎氏に川崎市名誉市民を贈る
- 3 月 「仮称岡本記念館建設構想」策定
岡本太郎氏の所有する主要作品 1427 点が追加寄贈される
- 4 月 「仮称岡本記念館建設基本計画策定委員会」設置
川崎市市民ミュージアム「TARO 万華鏡」展開催
- 7 月 「仮称岡本記念館建設基本計画」策定
建設予定候補地を生田緑地に選定
「仮称岡本太郎美術館建設委員会」設置
- 平成 7 年 3 月 建築基本設計、展示基本設計、シンボルタワー基本設計完了
- 12 月 「仮称岡本太郎美術館資料収集委員会」「同評価委員会」設置
- 平成 8 年 1 月 岡本太郎氏逝去（享年 84 歳）
- 3 月 建築実施設計、展示実施設計、シンボルタワー実施設計完了
- 6 月 アートガーデンで川崎「岡本太郎追悼」展開催
- 11 月 美術館建設工事着工
- 平成 9 年 3 月 「仮称岡本太郎美術館運営準備協議会」「同調査委員会」設置
- 9 月 新百合トゥエンティワンで「'97 TARO」展開催
- 11 月 展示工事、シンボルタワー「母の塔」工事着工
- 平成 11 年 2 月 美術館建設工事、展示工事竣工
- 4 月 川崎市岡本太郎美術館発足
（財）川崎市博物館振興財団に管理運営を委託
シンボルタワー「母の塔」工事竣工
- 7 月 仮称岡本太郎美術館建設事業完了
- 10 月 川崎市岡本太郎美術館開館
- 平成 12 年 6 月 入館者 10 万人達成
- 平成 13 年 11 月 入館者 20 万人達成
- 平成 15 年 4 月 入館者 30 万人達成
岡本敏子氏の所有する岡本太郎関連資料 1827 点が寄贈される
- 平成 16 年 3 月 多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施
多摩区役所 1F ロビーに《樹霊》設置
- 9 月 入館者 40 万人達成
- 平成 17 年 10 月 多摩区役所 1F ロビーに《月の顔》設置
- 11 月 多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施
- 平成 18 年 2 月 入館者 50 万人達成
- 10 月 多摩区民祭に伴う川崎市民入館料無料の実施
- 平成 19 年 1 月 入館者 60 万人達成
- 10 月 多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施
- 平成 20 年 6 月 入館者 70 万人達成
- 10 月 多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施

- 平成 21 年 6 月 入館者 80 万人達成
10 月 開館 10 周年／多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施
- 平成 22 年 9 月 岡本太郎生誕 100 年イベント ダンス公演「TARO と踊ろう！」開催
10 月 多摩区民祭に伴う入館料一律 100 円の実施
11 月 ミューザ川崎・企画展示室にて「99 歳あっぱれ太郎ー岡本太郎美術館のあゆみ」展開催
- 平成 23 年 1 月 入館者 90 万人達成
2 月 岡本太郎生誕 100 年 誕生日記念イベント開催
3 月 東京国立近代美術館で「生誕 100 年 岡本太郎」展開催
東日本大震災の影響により 3 月 12 日～18 日まで休館
10 月 岡本太郎生誕 100 年記念イベント ダンス公演「TARO と踊ろう！」開催
- 平成 24 年 3 月 入館者 100 万人達成・記念イベント開催

4. 施設・設備概要

常設展示室 (1,026 m²)

岡本太郎の多岐にわたる分野を越えた幅広い芸術作品や著作、パフォーマンス、フィールドワーク等の活動、また思想的な背景となる民族学やパリ時代での交友など多面体の岡本太郎の軌跡を伝えるためには、その表現世界の広がりに応える展示環境が不可欠でした。

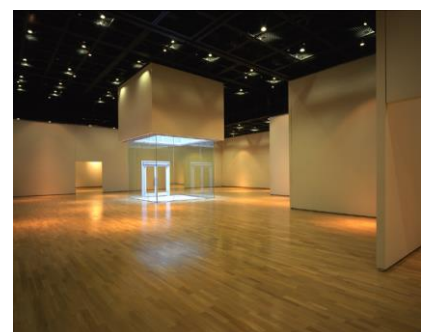
常設展示室は、芸術活動の分野や内容、作品の特徴や形状、時代毎の傾向などによって、展示室全体が複雑に分節され、それぞれに独自の空間と役割を与えられた部屋が柔らかく結ばれた迷路のように作られています。そこには順路はなく来館者は迷宮の様な空間を歩きながら岡本太郎と出会い、その断片を発見する旅がはじまるのです。

各ゾーンには作品を映像・グラフィックと共に見せる絵画ゾーン、作品そのものによって空間を構成し、照明効果、映像の演出によって様々な表情を見せる彫刻のゾーン、また多面的な活動をわかりやすく紹介する展示空間など、それぞれが岡本太郎を訪ねる旅の一場面となっています。

これら従来の作品を単に鑑賞する美術館から、子供から大人まで、理屈抜きに岡本太郎を肌で感じ体験できる展示空間として、楽しんでいただけます。

企画展示室 (828 m²)

岡本太郎に関わる展示だけでなく、新人作家の紹介や、現代美術、子供の創造性を高める参加型の展覧会など様々な展示に対応できる空間です。中央に外光を取り入れるための光庭が配置され、828 m²の空間は可動壁によって、いくつものパターンの展示空間を作ることができます。



母の塔

岡本太郎美術館のシンボルタワー「母の塔」は、「大地に深く根ざした巨木のたくましさ」と「ゆたかでふくよかな母のやさしさ」「天空に向かって燃えさかる永遠の生命」をテーマとして製作されました。製作にあたっては原型を3次元解析して得た座標数値を基に、正確に再現しています。

外装のGRCパネルは高い強度と精度管理のしやすさから、またクラッシュタイルは3次曲線に追従し、かつ目地処理が容易であることから選ばれました。外装の「タローホワイト」と名付けた特殊な色のタイルは、光を浴びるとゆっくりと表情を変え、微妙な歪みや揺らぎを見ることができます。

施工に際しては、空中における3次元座標の管理、複雑な形状とデリケートな作業、合理的な仮設計画等から、全ての作業を作業床で完了させるジャッキアップ工法が取り入れられ、先端部分から順に完成させては押し上げる、まるで大地から生えてくるような、制作のプロセスそのものもダイナミックで芸術的な施工方法で完成しました。

- 名称・・・母の塔
- 原作者・・・岡本太郎
- 原型制作年・・・1971年
- 設計・・・川崎市教育委員会、現代芸術研究所
- 施工・・・戸田・北島共同企業体
- 建物用途・・・工作物（屋外彫刻）
- 構造・・・鉄骨造（塔体パイプトラス+鋳鋼ジョイント）
- 全高・・・30m
- 工法・・・ジャッキアップ工法
- 支持杭・・・現場造成杭（機械掘深礎工漬）径2m、7本
- 外装・・・外殻 GRCクラッシュパネル
仕上 クラッシュタイル（スコルト加工）
- 人形彫刻・・・FRPブロンズ仕上 16体 H=3.0~5.6m
内部 常温亜鉛メッキ鉄骨補強
- その他設備・・・照明設備、避雷

